

平成10年2月27日
動力炉・核燃料開発事業団

高レベル放射性廃棄物の中間貯蔵の取組みについての考え方

東海再処理工場において固化される高レベル放射性廃棄物（ガラス固化体）の中間貯蔵については、その必要性、計画の概要、安全性について継続的に情報公開し、主に以下の点について理解活動を実施する。

○東海再処理工場で発生するガラス固化体は、中間貯蔵施設へ運搬。ガラス固化体は30年から50年間、冷却のため安全に貯蔵管理された後、最終処分場へ搬出。

○中間貯蔵施設の計画概要。

○ガラス固化体の輸送及び中間貯蔵施設の安全性。

また、中間貯蔵については、廃棄物政策上その必要性に変わりはないことから、さらに理解を得るための努力を進めつつ、全国的な見地という考え方を十分に踏まえて取り組む。

○高レベル放射性廃棄物の中間貯蔵について、計画の取りまとめ。

○全国的見地から、自然環境（気象、地盤、水利、地震等）に関するデータや、社会的環境（インフラ整備状況、危険物の存在等）に関するデータについて、各種既存資料（既測定データ、気象情報、行政情報等）に基づき調査を実施し、中間貯蔵施設を立地する上で、明らかに不適切な立地条件を明確にする。

○全国的見地からの調査結果を勘案し、適切であると判断する地点について、地元の意向（誘致）を十分に踏まえながら、立地環境調査を自治体へ申し入れる。

○立地環境調査を実施し、中間貯蔵施設の立地点を決定する。

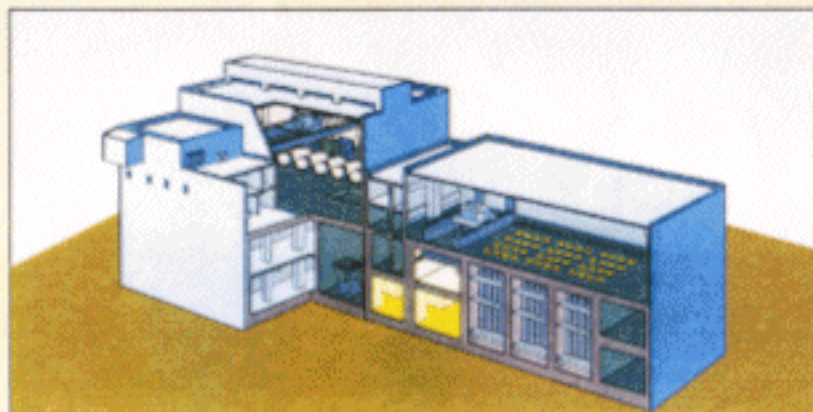
以上

高レベル放射性廃棄物の中間貯蔵について

○東海再処理工場で発生するガラス固化体は、高レベル放射性廃棄物の中間貯蔵施設へ運搬。

○ガラス固化体は30年から50年間、冷却のため安全に貯蔵管理された後、最終処分場へ搬出。

高レベル放射性廃棄物の中間貯蔵施設のイメージ



＜動燃事業団のガラス固化体の仕様＞

重量：約400kg

高さ：104cm

直径：43cm



ガラス固化体

＜施設の安全性＞

（１） 遮へい

一般公衆や施設内の従事者が、法令等で定められた線量当量限度を十分下回るよう、厚いコンクリートや鉄等の壁で放射線を遮へいします。

（２） 耐震

立地地域の過去の最も大きな地震を上回る地震にも耐えられるよう、施設を設計、建設します。

（３） 閉じ込め

ガラス固化により放射性核種を容器内に封じ込めたり、冷却空気が直接ガラス固化体に触れない設計にすること等により放射性核種を施設内に閉じ込めます。

（４） 輸送

ガラス固化体の輸送においては、ガラス固化体や輸送容器の落下試験等により安全性が確認されます。

（参考） 高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター
（日本原燃株式会社、青森県六ヶ所村）



青森県六ヶ所村において返還ガラス固化体の貯蔵管理センターが、平成7年4月から安全に操業中。ガラス固化体の貯蔵は、平成10年2月現在68本。今後3千数百本が返還される予定。